

令和2年度 大阪市立水都国際高等学校 運営に関する計画

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの導入を目指している。国際バカロレアの認定校となれば、大阪府の公立学校として初めての認定校となる。さらに、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の各教科において英語を用いた授業を実施している。

しかしながら、入学してきた生徒の英語力の差は大きく、教員間で英語に課題がある生徒のサポート体制の構築を進めてはいるが、こうした課題をどのように解決していくのが喫緊の問題である。また、多様なバックグラウンドを持つ教職員と本校の教育理念を共有し、生徒たちと共に学校の文化を創っていく取り組みを進めている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- ・ 令和3年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を令和2年度からの2年間で全体の90%を目指す。
- ・ 令和3年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、令和2年度からの2年間で全体の90%を目指す。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・ 令和3年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検準2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を80%以上にする。
- ・ 令和3年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。
- ・ 令和3年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- ② 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。
- ③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。
- ⑤ 令和 2 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70% を目指す。
- ⑥ 令和 2 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 70% を目指す。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 令和 2 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70% 以上にする。
- ② 令和 2 年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80% 以上にする。
- ③ 令和 2 年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80% 以上にする。
- ④ 令和 2 年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80% 以上にする。
- ⑤ グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) の認定を受け、教育を実践していく。
- ⑥ グローバル探究科として、IB のカリキュラムと学習指導要領とが両立するように、教育課程を編成し、実践していく。
- ⑦ 英語力の指標として、CFER の B2 レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の伸長を目指す。
- ⑧ 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80% 以上にしていく。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪府立 (学校園名) 平成 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>② 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>⑤ 令和2年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の70%を目指す。</p> <p>⑥ 令和2年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の70%を目指す。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 防災・減災教育の推進</p> <p>南海トラフ地震を想定した地震及び津波に関する知識を深め、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を養う。区と連携した防災カリキュラム作成・活用の推進を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災・震災を想定した防火訓練、防災訓練をそれぞれ年に1回実施する。 ・ 登下校報告書を生徒に作成させる。 	
<p>取組内容②【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 安全教育の推進</p> <p>安全（防犯）に対する心構えなどの指導を計画的に、継続的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に理解できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット、SNS等に関するオリエンテーション、継続的指導を実施する。 ・ 不審者対応に関する講演会、または研修等を年に1回以上実施する。 	
<p>取組内容③【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>○ 道徳教育の推進</p> <p>LEGO® SERIOUS PLAY®のメソッドと教材を活用したワークショップを通して、一人ひとりの個性を認め、自己表現のスキルを伸ばし、異文化理解を深めるカリキュラムを作成していく。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育推進委員会を中心に「特別の教科 道徳」のカリキュラムを作成し、実践する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪府立 (学校園名) 平成 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>① 令和 2 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。</p> <p>② 令和 2 年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。</p> <p>③ 令和 2 年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。</p> <p>④ 令和 2 年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。</p> <p>⑤ グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を受け、教育を実践していく。</p> <p>⑥ グローバル探究科として、IB のカリキュラムと学習指導要領とが両立するように、教育課程を編成し、実践していく。</p> <p>⑦ 英語力の指標として、CFER の B2 レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の伸長を目指す。</p> <p>⑧ 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80%以上にしていく。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進 本校の教育理念である3E(Encourage, Engage, Empower)をもとに、社会に貢献する協創力をみがく。</p>	
<p>指標</p> <p>・ 中高合同の教員研修を学期に1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○ 英語教育の強化 英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の各教科において英語を用いた授業を実施する。</p>	
<p>指標</p> <p>・ 授業を通して、英語を活用したプレゼンテーションを英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の各教科において実施する。</p>	
<p>取組内容③【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○ 公設民営学校(国際バカロレア)の設置</p> <p>・ 自国の伝統文化に根ざした国際理解教育と外国語教育に重点を置き、授業では競争的な課題探究型学習を多く実施し、英語によるコミュニケーション能力、異なる文化や考えを理解し、多面的に深く志向する力、生涯にわたり学び続ける態度等育成していく。</p>	
<p>指標</p> <p>・ グローバル探究科としての各教科におけるカリキュラムの開発、実践を行っていき、大阪市内をはじめ多くの教育関係者に向けた研修会や授業公開、体験授業を年に3回以上実施する。</p>	
<p>取組内容④【施策7：健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○ 健康に関する現代的課題への対応</p> <p>・ 健康に関する指導を推進するとともに、手洗いの励行などに日常指導を実施し感染症予防に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>・ 健康に関する指導の推進、並びに感染症等、生活習慣病、環境問題、心の健康、喫煙、飲酒、薬物についての正しい知識を身につけさせる体験型の取り組みを年に1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【施策8：施策を実現させていくための仕組みの推進】</p> <p>○ 校務負担を軽減するための環境整備</p> <p>・ ICTの活用による学校経営の効率化、高度化や学校情報発信の促進、授業資料並びに定期試験や授業内の小テスト等のPC上での実施を推進していく。</p>	

指標

・会議資料、授業資料等の配布回収をネットワーク上で共有し、CBT(Computer Based Test)の形式での試験を年に1回以上実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

1 学校運営の中期目標 <教務部>

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

高校2年生からは、グローバルコミュニケーションコース、グローバルサイエンスコースとIBDPコースの3コースがスタートし、向こう2年間のシラバスの作成、人員配置の原案の作成を実施していく。また、新学習指導要領以降に向けた準備を、本格的に開始していく。

IBDPに関しては、科目サーティフィケートを含め、できるだけ多くの生徒が認定に向けて前向きに取り組めるように、環境整備を行っていく。

将来の大学入試制度の改変並びにそれに向けたe-ポートフォリオの運用等に関して、進路指導とともに、準備を進めていく。

中期目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

組織的な学校運営を行い、生徒一人一人の実情に応じた教育手法並びにオンライン学習環境における教育手法をを研究し、国際社会で活躍できる人材を育成していく教育活動の根底を固める。

多様なバックグラウンドの教員に、日本の公立学校としての成績のつけ方や、学習指導要領の改編に伴う、内容の確認等を伝えていく。

教員1人1人のアイデアや、実践していききたい教育活動を実現させていくための相談や、協力を行っていき、生徒に生き生きしている教員の姿を見せることで、生徒たちに

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 各授業時数の確保並びに、生徒・教員にかかる負担を考慮しながら、年間行事予定の計画していく。
- ② コース選択をしていくうえでの説明会や、コースの体験授業を計画し、より具体的に生徒が進路選択をできるように、進路指導と協力して進めていく。
- ③ 新学習指導要領以降に向けた教育課程の編成を検討していく。
- ④ グローバル探究科として、次年度の学校設定科目の計画並びに準備を計画的にしていく。
- ⑤ 成績処理並びに学籍管理システムの導入と、全教職員に向けた研修を実施する。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

1 学校運営の中期目標 <生徒指導部>

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

生徒指導部では、水都生としてより良く生活するための方針をまとめ、周知と呼びかけ、振り返りを行っていく。自由であることと共に、その背景にある責任や、一般社会における考え方やマナー、法律や条例等の説明したうえで、生徒自身に考えて行動してもらうように促している。昨年、生徒中心に半年かけて設立した生徒会組織は、新たな活動を行いながら、より細部まで創り上げていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

様々な背景を持つ生徒、教職員が本校の学校生活を通して共通のルール・マナーを守り、また本校ならではのルールを生徒を主体として作成していくこと目標にしている。生徒が、学校の一部を作成していくことに直接かかわる機会を設け、自治の意識と決定のプロセスを直に経験できる仕組みを作っていく。

生徒会作成をはじめ、生徒一人一人が、学校を創り上げていく経験をする事、また、この経験を通して、協創力を磨いていくことを目標とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- ① 一人一人の違いを認識し、許容し理解できるようにしていく。
- ② 学校独自の校則ではなく、社会におけるルールやマナーを自覚し、自分たちの行動を振り返るようにしていく。
- ③ 自由と責任について考え、理解し、行動できるようにする。
- ④ 生徒会組織を生徒と教職員で協働して進めていく。

3 本年度の自己評価結果の総括

1 学校運営の中期目標 <進路指導部>

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

社会に向けてどのようなことをしたいか、していきたいかを明確に持っている生徒もいる反面、まだ考え始めた生徒も存在している中で、まずは自己理解を深め自分に必要な経験やスキルを見極めていく時間を設ける必要がある。そのための、様々な職業に関する講話やキャリア教育を計画していく必要がある。

進路に関しては、海外大学に関しては、各国ごとの進学方法等、情報を収集していく必要がある。留学を希望し英語の運用能力を積極的に伸ばしていこうとする生徒も一定数存在しており、これらの生徒に対する進路指導をどのように実施していくかが課題となっている。

しかしながら、国内大学への進学希望者も少なくないことから、具体的な国内大学進学に向け、戦略的に生徒に合わせた進路指導を実践していく必要がある。

中期目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

進学に関して、国内並びに各国の大学進学の方法や、費用等の詳細を把握し、進路指導の方針を創り上げていく。IBDPを活用した入試に関する情報や、世界の情勢を把握し、IBDPが認定されてからのシミュレーションや方法を、計画的に検討していく。

上記と同時に、今後移行していく新しい大学共通試験に向けた準備や、対策を検討し教科ごとの模擬試験をはじめ、英語力をはかる外部試験や、科目外の知識やスキルをはかる外部試験等を実施し、学力面と精神面との両方の評価を伸ばしていく。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- ① 一人一人の違いを認識し、自分についてより深い理解を促していく。
- ② 自分の取り組みたいこと、チャレンジしたいことを発見していき、能動的に生徒が学習、協働していくための仕掛けづくりを教務と協力して実践していく。
- ③ 日本の大学入試に向けた推薦等の学内のルール策定を進めていく。
- ④ できるだけ多くの海外大学進学の情報収集し、どのように進路指導をしていくかの方針を作成していく。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式例3)

平成 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 (学校園名) 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標(全市共通・学校園)ごとの評価

年度目標:

--

年度目標:

・ ・ ・ ・

3 今後の学校園の運営についての意見

--